

- ◆日程 2017年7月28日(日)
- ◆メンバー L：小林
- ◆天候 曇り 一時雨

例会山行として逆川を計画したが参加者が無かった。富士川西岸の大柳川溪谷探勝と近くの藪山を考える。御殿山は楕形山と身延山の稜線上にあり源氏山や富士見山と比べると更にマイナーとなる。早朝出発し中央道は雨だった。現地に到着、靴を履き替える。地元の方から「どこへ行くの？こっちから御殿山、登んね～えな」と言っていた。それもその筈、稜線上へ反対側から簡単に車に入れるからだ。



十谷温泉の宿 源氏荘から吊り橋を渡る。2.5万円の登山道が使えると思ったが痕跡すら無かった。急斜面の尾根を強引に突入する。地図とコンパスで現在地を確認しながら高度800mで傾斜が緩む。200mの登りに暑さと湿気で全身びしょり、手拭も絞れば汗が出てくる。昔の登山道を捜したがここでも道らしき痕跡は無かった。尾根上を忠実にトレース、青ゴケが岩に付着した場所で右手を前に出した時に「ブーン チク」手の甲をハチに刺された。針は残っていないので水で冷やす。1時間程で刺された場所から手の末端へ段々と腫れが出てきた。アナフィラキシーを恐れたが幸いには出なかった。1030mで林道にでる。お握りを食って再度、尾根に入る。十谷峠に到着し休憩、今回の山行の汗は半端ではない。

峠からの道ははっきりとして歩き易い。40分程で御殿山に到着、三角点を往復して来た。傍らのベンチでお楽しみタイムとなる。汗が出きったので水分補給は500缶がよかったなあ、と思う。すると雨が降り出した。枝葉の屋根が凄いだ雨も地表に落ち始め傘をさしての昼食となる。以前から登ろうと思ったマイナーな山で雨のひと時も乙なものである。

1613mの尾根下山で林道にでる計画であったが来た道に戻る事にした。帰りを考え登りで2か所に目印を残した。でも、それ以外の場所ではコースを外し修正する。登りは簡単でも下山ルートを取り方は難しい。下山しているとタヌキがじっとこちらを見ている。「ワンワン」と声を掛けると逃げていった。その下ではキジが長い尾羽で糸を引くように飛んでいく。さらに野ウサギが1羽跳ねていった。ルートファインドを楽しみながら十谷温泉に到着、大柳川溪谷の遊歩道の滝を見ながら車に戻る。

温泉で汗を流し1時間半程の仮眠をとる。帰りは本降りの雷雨が続き80km安全走行、仮眠の成果だろう「ぱっちり」とした目で運転し帰宅した。

ハチの毒液は警戒フェロモンの働きを持っていると言う。刺された人体から出た警戒フェロ

モンは他の蜂を刺激する。「ブーン」と異常な回数の威嚇をされた。一部の腫れは翌日には右手全体がグローブ状態となり痒みを伴った。薬を塗り 3 日目にはお蔭様で完治した。

(日帰り温泉) 富士川町、かじかの湯¥640・ 夜 9 時まで

殆どが地元の人で好感の持てる湯食堂は夜の部 17:30 から開店

CT : 十谷温泉駐車場 7 : 48-十谷峠-11 : 23/11:30-御殿山 12:08/12:45

ー大柳川溪谷入口 15 : 18/15 : 33-駐車場 16 : 10

(記 : こばやし)

